

私たちは学費値上げに反対し 高等教育無償化を求めます

学費値下げ、給付奨学金拡充、奨学金の返済免除を

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

〔請願趣旨〕

「学費が高すぎる」「奨学金を借りないと払えないなんておかしい」——高学費に、多くの学生と家族がおしつぶされています。大学の授業料は国立大で年間約56万円、私立大（平均）で約95万円とあまりに高く、学生の約2.5人に1人が奨学金という名の借金を背負い、アルバイトなしには学生生活が成り立ちません。入学金も重い負担です。学費減免と給付奨学金で学生を支援する制度があるものの、所得や成績要件が厳しくあてにできません。奨学金の重い返済負担のために、「食事を削っている」「結婚や出産をあきらめた」など卒業後も若者が苦しんでいます。

2012年に日本政府は、国際人権規約にある「権利としての無償教育」をすべて批准し、「すべての教育段階において無償教育を実現する」ことを国際公約しました。

しかし、無償化どころか、いま物価高騰のなかで学費値上げが相次いでいます。23年度以降、私立大学の4分の1、国公立大の一部が授業料を値上げしました。岸田政権のもと、「授業料値上げは必要」「国公立大が上げないと私立大も上げられない」（文科省の審議会）と値上げの動きに歯止めどころか、拍車をかける議論が始まっています。

「受益者負担」の考え方で個人に負担をおしつけてきた自民党政治のやり方は、もはや持続不可能です。高等教育無償化の実現にむけて、教育予算を増やし、学費を値下げに転換することこそ、若者と日本社会の未来に希望を拓く道です。以下の項目を請願します。

〔請願項目〕

- 1、いまずぐ学費を半額などに値下げし、高等教育無償化にふみだすこと
- 2、成績や世帯人数などの“条件付き”ではない給付奨学金を抜本的に増やすこと
- 3、奨学金を返済している人の負担を半額免除など、大幅に軽減すること

氏 名	住 所

【 明るい革新日本をめざす中央青年学生連絡会議 】